

令和5年度 子どもの読書活動に関するアンケート調査結果（学校対象）

1 調査対象

調査対象	小学校・義務教育学校	中学校・義務教育学校	高等学校	合計
調査対象数(校)	34	18	16	68
有効回答数(校)	32	7	15	54

2 調査結果

問1 子どもたちへ読書の関心を高めるためにどのような取組をされていますか。
 （あてはまるものをすべて選んでください）

【調査結果の概要】

- ・小学校、中学校、高校とも、「本の展示」、「おすすめ本の紹介」、「授業での図書館利用」、「図書館の利用ガイダンス」と回答した割合は約9割と高い。
- ・小学校では、それに加え、「読み聞かせ」（96.9%）や「読書ボランティアとの連携」（96.9%）にも積極的である。
- ・中学校では、その他（自由記入）には「本のポップ（※1）作り」「ポップコンテストへの参加」が挙げられている。
- ・高校では、「ビブリオバトル（※2）」の取組（33.3%）もあり、小学校・中学校と比べて高くなった。また、その他（自由記入）には、図書委員の生徒による紹介ポップの作成、図書委員会だよりの発行、図書委員主催イベントなど、教職員からの働きかけに加え、図書委員の活動も挙げられている。
- ・「朝読書等の一斉読書」は、小学校・中学校の実施率はほぼ100%と高く、高校では53.3%となった。

（注）※1 ポップ…書店の店頭等で見られる、短い文で本の内容や魅力を伝えるカードのこと

※2 ビブリオバトル…発表者が好きな本を持ち寄って紹介し合い、会場の観覧者による投票で、一番読みたくなった本（チャンプ本）を決める知的書評合戦のこと

【図表】

	本の展示	読み聞かせ	ブックトーク	パネルシアター	ビブリオバトル	読書会	読書ボランティアとの連携
小学校(n=32)	93.8%	96.9%	65.6%	18.8%	15.6%	0.0%	96.9%
中学校(n=7)	100.0%	28.6%	0.0%	0.0%	28.6%	14.3%	14.3%
高校(n=15)	93.3%	0.0%	20.0%	0.0%	33.3%	6.7%	0.0%
合計(n=54)	94.4%	61.1%	44.4%	11.1%	22.2%	3.7%	59.3%

	おすすめ本の紹介	学級文庫の設置	授業での図書館利用	朝読書等の一斉読書	図書館の利用ガイダンス	特に行っていない	その他（自由記入）
小学校(n=32)	96.9%	87.5%	93.8%	96.9%	87.5%	0.0%	3.1%
中学校(n=7)	100.0%	71.4%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%	28.6%
高校(n=15)	100.0%	46.7%	93.3%	53.3%	100.0%	0.0%	20.0%
合計(n=54)	98.1%	74.1%	94.4%	85.2%	92.6%	0.0%	11.1%

問2 保護者会や各種通信等を通じて、読書や読み聞かせの意義等を家庭へ説明していますか。

(1つ選んでください)

【調査結果の概要】

- ・小学校では約8割(81.3%)、中学校では約6割(57.1%)が読書の意義等について家庭への説明を行っている。

【図表】

	している	していない
小学校(n=32)	81.3%	18.8%
中学校(n=7)	57.1%	42.9%
高校(n=15)	13.3%	86.7%
合計(n=58)	59.3%	40.7%

問3 外国にルーツを持つ児童生徒のために母語で書かれた本を所蔵していますか。

(1つ選んでください)

【調査結果の概要】

- ・外国にルーツを持つ児童生徒が在籍している学校は小学校(59.4%)、中学校(57.1%)と約6割となった。
- ・日本語を母語としない児童生徒は一定数在籍しているが、母語に対応した資料を「所蔵していない」と回答した割合は、小学校で約7割(73.7%)、中学校で約8割(75.0%)、高校で約5割(53.3%)であった。

【図表】

	在籍している			在籍していない
		所蔵している	所蔵していない	
小学校(n=32)	59.4%	26.3%	73.7%	40.6%
中学校(n=7)	57.1%	25.0%	75.0%	42.9%
高校(n=15)	100.0%	46.7%	53.3%	0.0%
合計	70.4%	34.2%	65.8%	29.6%

問4 校内には特別支援学級がありますか。(1つ選んでください)

【調査結果の概要】

- ・調査を実施したすべての小学校、中学校には特別支援学級がある。

【図表】

	ある	ない
小学校(n=32)	100.0%	0.0%
中学校(n=7)	100.0%	0.0%
高校(n=15)	0.0%	100.0%
合計(n=39)	72.2%	27.8%

問5 障がいの状態や特性等を考慮した資料を所蔵していますか。(1つ選んでください)

【調査結果の概要】

- ・特別支援学級がある小学校、中学校において、小学校は約5割(53.1%)、中学校は約9割(85.7%)で障がいの状態や特性等に配慮した資料を「所蔵している」と回答した。

【図表】

	所蔵している	所蔵していない
小学校(n=32)	53.1%	46.9%
中学校(n=7)	85.7%	14.3%
高校(n=15)	53.3%	46.7%
合計(n=54)	57.4%	42.6%

問6 問5で「所蔵している」と回答した方へお聞きします。

(6-1) 所蔵している資料についてあてはまるものすべてを選択してください。

【調査結果の概要】

- ・回答が高い項目は次のとおりとなった。
 - ・小学校は、「点字図書」(58.8%)、「さわる絵本」(58.8%)と回答した割合が高い。
 - ・中学校は、「点字図書」(50.0%)、「さわる絵本」(33.3%)の順に高い。
 - ・高校は、「点字図書」(75.0%)、「さわる絵本」(50.0%)の順に高い。
- 小学校、中学校、高校すべてで「点字図書」「さわる絵本」と回答した割合が高く、その他の資料を所蔵している学校は3割に満たない。

【図表】

	点字図書	拡大図書	録音図書	さわる絵本	布の絵本	LLブック (やさしく 読める本)	デジター図 書	マルチメ ディアデ ィー図書	手話や字幕 のついたDV D	その他 (自由記入)
小学校(n=17)	58.8%	11.8%	0.0%	58.8%	5.9%	23.5%	0.0%	5.9%	11.8%	11.8%
中学校(n=6)	50.0%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	16.7%	33.3%
高校(n=8)	75.0%	12.5%	0.0%	50.0%	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
合計(n=31)	61.3%	9.7%	0.0%	51.6%	6.5%	12.9%	0.0%	6.5%	9.7%	12.9%

(6-2) 障がい等に配慮した資料について、公立図書館に相談したり、資料を借りることがありますか。(1つ選んでください)

【調査結果の概要】

- ・障がい等に配慮した資料について、公立図書館に相談したり、資料を借りる等している割合は、小学校で約4割(41.2%)、中学校で約7割(66.7%)、高校で5割(50.0%)であった。

【図表】

	ある	ない	その他 (自由記入)
小学校(n=17)	41.2%	52.9%	5.9%
中学校(n=6)	66.7%	16.7%	16.7%
高校(n=8)	50.0%	50.0%	0.0%
合計(n=31)	48.4%	45.2%	6.5%

問7 児童生徒へ地域の公立図書館の利用方法を説明したり、利用をすすめたりすることがありますか。(1つ選んでください)

【調査結果の概要】

- ・児童生徒へ公立図書館の利用等について説明を行っている割合は、小学校、中学校、高校のいずれも高い。特に高校では約9割（93.3%）となった。

【図表】

	ある	ない
小学校(n=32)	71.9%	28.1%
中学校(n=7)	85.7%	14.3%
高校(n=15)	93.3%	6.7%
合計(n=54)	79.6%	20.4%

問8 読書活動の推進に取り組む上で特に課題だと感じることはなんですか。(あてはまるものを3つまで選ぶことができます)

【調査結果の概要】

- ・小学校、中学校、高校で、「ICTを活用した読書推進の取組」と回答した割合が約7割と最も高く、次いで「学校図書館の資料の充実」が5割を超えている。小学校から高校まで共通の課題を抱えていることが分かる。

【図表】

	読み聞かせやブックトーク等のノウハウ	学校図書館の資料の充実	図書館システムの導入や蔵書のデータベース化	公立図書館の活用・連携	読書ボランティアとの連携	ICTを活用した読書推進の取組 (例. 図書だよりの配信、図書委員によるおすすめ本の紹介動画の作成)	特になし	その他(自由記入)
小学校(n=32)	28.1%	53.1%	15.6%	21.9%	3.1%	65.6%	3.1%	9.4%
中学校(n=7)	14.3%	57.1%	14.3%	14.3%	0.0%	71.4%	14.3%	57.1%
高校(n=15)	13.3%	53.3%	13.3%	20.0%	6.7%	66.7%	6.7%	33.3%
合計(n=54)	22.2%	53.7%	14.8%	20.4%	3.7%	66.7%	5.6%	22.2%

問9 子どもの読書活動の推進について、ご意見があればご記入ください。

【調査結果の概要】

- ・一斉読書の時間縮小から教職員が読書の良さを伝えることを意識する必要がある、子どもたちは個人差があるものの教員が薦めた本は読む傾向にあるなどの意見があり、学校での読書推進には教職員の理解や働きかけが重要であることが分かる。
- ・コロナの感染拡大に伴う利用制限がなくなったが現在でも学校図書館の利用が回復しないこと、子どもたちがデジタルに触れる機会が多くなっていることなど、近年の子どもの読書環境の変化に対応した読書推進の取組が必要だと捉えていることが分かった。
- ・本を読むことは好きだがすすんで読書をする子どもが減っているように感じる、本を読まない子や文字を追うことに困難を感じる子が増えているように感じる等といった所感もあり、小学校、中学校、高校が連携して読書活動を推進することが必要との意見もあった。